

平成24年度【 提案 】事業 成果指標設定調書

【成果指標の設定】

成果指標設定年度 24 年度

市町村名	鳩山町		
事業名	古代工房～古代窯跡の里～地域おこし事業		
事業期間	平成24年7月2日～平成25年3月29日		
事業の必要性、目的	<ul style="list-style-type: none"> ・本町には、今から1,200から1,300年前（奈良・平安時代）の須恵器や瓦の窯跡が約400箇所あり、一大生産遺跡である。 ・「南比企窯跡群」は、町の北西部の約3分の1の面積を占め、その規模は東日本最大で、全国でも5本の指に入る。 ・窯跡群のうち、「赤沼古代瓦窯跡」、「石田国分寺瓦窯跡」は、埼玉県の指定史跡で、豊かな里山環境の下、良好な保存状態にある。 ・窯跡の周囲から古代工房や工人の住居、関東でも最古級といわれる製鉄の痕跡も発見され、当時は古代ハイテク産業の中心地であった。 ・「赤沼古代瓦窯跡」は、町農村公園西側にある丘陵の傾斜を利用した地下式の穴窯（登り窯）の跡で、県内最古例の一つである。 ・この窯跡で焼かれた瓦は、白鳳寺院として武蔵国最大で勝呂廃寺（坂戸市勝呂）に供給し、創建期の軒先を飾っていた瓦であることが判明している。 ・町では、平成23年度から「南比企窯跡群」を国の指定史跡にするための取組みを行っている。 ・また、第5次総合計画の協働戦略事業の一つとして「全町公園化・遊休地活用」事業（町内の資源を結び観光資源とする事業）に取り組んでおり、「赤沼古代瓦窯跡」をはじめとする町内の複数の窯跡を中心に遺跡公園として整備することで、全国に誇る文化財の有効活用を目指している。 		
成果指標	（成果を検証する指標）		
	・古代窯跡関係イベント等への来場者数（町への入込客数）		
	（成果検証の具体的な方法）		
	・窯跡イベント等（町展示室見学も含む）の来場者数などを事業実施の前後で比較、その増減数及び原因についても分析・検証を行う。		
	・アンケート調査を実施し、より魅力的な観光文化資源としての活用を検証する。		
	（上記の指標を設定した理由）		
	・文化財の有効活用 ・訪問客の誘導及び地域活性化		
（成果の目標値）			
現状値 （23年3月現在）	850人（年間平均）	目標値 （26年3月時点）	4,000人（年間）
（施設建設等の場合）			
年間利用者数（目標）（人）	—	稼働率（目標）（%）	—
住民への公表方法及び特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・町ホームページで目標値と結果について公表する。 ・アンケート調査結果は、今後の改善策の検討材料とする。 		

【成果指標と構成事業の関連性】

平成24年度 構成事業

構成事業名	概要・成果指標との関連性	事業費（千円）
① 古代窯跡観察施設整備事業	ハード 昭和25年に発掘され覆屋で保護された赤沼古代瓦窯跡は、鳩山の古代窯業遺跡の象徴的な存在である。しかし、雨風を防ぐことを目的とした覆屋であり、狭く暗く出入口もないため、内部を見学することができない状態である。そこで趣のある外観を活かしつつ、通常では埋もれて見ることのできない本物の窯跡を観察できる施設に改修（採光できる屋根、大きな窓、出入口を設置等）し、古代窯の里のシンボリック的存在として整備する。	2,102
② 古代窯再現事業	ハード 赤沼古代瓦窯跡の側に、鳩山町の誇る固有の文化資源である古代の窯跡を、当時と同じ姿に再現し、赤沼古代瓦窯跡とあわせて古代窯跡の里である鳩山の新たな文化的シンボルとする。	6,000

<p>③ 「古代窯の里」 体験学習事業</p>	<p>ソフト</p>	<p>以下の(イ)～(ロ)の事業を連動させて行う。 (イ) 古代と同じ構造の窯を用い、実際に瓦や須恵器を焼成する公開実験を開催、歴史的資源を活用した参加型のミュージアムを目指す。瓦・須恵器の原料には地元の粘土を、燃料薪は周辺の里山からの間伐材を使用し、単なる陶芸体験とは異なる古代工場の再現を目指す。 (ロ) 希望者を募って古代の技法で瓦を作り、当時も実際に使われていた簡易窯で焼く。発想自由に絵やサインを記したオリジナル瓦を作れる工房を目指す。 (ハ) 窯以外の要素として、農村公園内に自生する茜の根を使った古代染物教室や、復元製作した土器による古代食・炊飯体験等も行い、古代工房丸ごと体験を目標とする。 以上の事業は特に参加者を限定するものではないが、性格上、特に町民や町の学校教育との連携を視座に進めるものとする。 また、(ロ)(ハ)は夏休みの親子を対象とした一連のイベントとして特別に企画し、鳩山の古代窯について学ぶ機会を提供する。 さらに地域おこし事業として長期ビジョンで取り組めるよう、ボランティアや協力者の獲得を行う。次年度以降は独自の座学や検定、さらには(仮称)町民学芸員を養成し、窯跡の解説や事業の企画・運営に加わってもらう。 オリジナルグッズ開発にも取り組み(一案としては古代瓦ストラップやアクセサリ)、イベント毎に先着順での記念品として配布、集客と宣伝効果を期する。</p>	<p>1,600</p>
<p>合計</p>		<p>9,702</p>	

【成果指標の達成見込み】

<p>目標達成のための 具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町広報紙、ホームページ、新聞及びテレビ等を活用し、町外・県外の人たちにも興味もってもらえるように広く情報発信する。 ・ 町文化祭等の各種イベントとタイアップし、誘導を図る。 ・ 進捗状況をホームページに掲載するなど、リアルタイムな情報発信に努める。
<p>成果指標の達成見込み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 窯を再現し焼成実験するというのは国内でもほとんど前例のない試みであり、話題性が高い。 ・ 現在窯跡群の国指定史跡化を進めており、その保存・活用の機運も高まっていることから、十分な成果を得られるものである。